



黄金の郷

こしえるびと

つむぐストーリー vol.73

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”のメッセージをシリーズで紹介していく。

農業への思い強く

山あいに広がる田園地帯で、農薬散布ヘリコプターを遠隔操作する槻山隆幸さん。農家に生まれ育ち高校生の頃には将来の就農を決め、高校卒業後は農業を手伝いながら市内の会社に勤めていた。その頃、地域では農家の高齢化により米作りをやめるところが増え、代わりに転作田を使った永年性牧草の栽培が盛んになっていた。転作田の有効活用に興味を持った隆幸さんは高校時代の恩師に相談。恩師のアドバイスを受け岩手県立農業大学校に進み農業の基礎を学んだ。恩師からの依頼で一関二高の農業の実習助手に就いた。6年間勤務し充実していたが「中途半端な農業はしたくない」と実習助手を辞め、米作りに専念する日々が始まった。

地域の防除作業に従事

県立農業大学校の授業で産業用無人ヘリコプターオペレーター資格を取得していた隆幸さんは、市内に住む農大の後輩2人と共同で

ヘリコプター1機を導入。防除作業をする組織「一関スカイネットサービス」を設立し、隆幸さんが代表に就いた。業務は奥州市の有限会社岩手スカイテックから作業委託される水田の農薬散布。岩手県内が業務エリアだが、遠いところでは県の最北まで行くこともある。

隆幸さんはヘリコプターのオペレーターもこなすが、主にナビゲーターを担当することが多い。「オペレーターが操作に集中できるように指示を出すことが一番重要」と話し、周囲の状況を把握しながら飛行の安全性を瞬時に判断し指示を出す。「これからは仲間を増やして機体も増機し、管内の防除を引き受けて地域に貢献していきたい」と夢は膨らむ。

地域農業を元気に

「何年やっても農業は1年生」。これまでの経験から、一人ではやりきれない事がたくさんあると知っている。「地域の人たちが力を貸してくれるから頑張れる」と

隆幸さん。地域でも集落営農を進めており、中山間事業などの事務局を務める他、集落営農組織「恋の丘営農組合」には設立から関わり、法人化に向けた取り組みを始めている。「個人としても、地域としても、農業を元気にしていくにはどうしたらいいのか。農地や農業を絶やすことなく、地域農業を守り続けたい」。隆幸さんの熱い思いと挑戦は続く。

—— 水稻育苗ハウスの有効利用を図るため、園芸作物の栽培を模索中。年間を通してハウスを有効活用していきたい。



私の一品

産業用無人ヘリコプター

一関スカイネットサービスで3年前に導入した産業用ヘリコプター「ヤマハFAZER R」。1日に約50畝を、安全に注意しながら散布します。

PROFILE

槻山 隆幸さん (41)
Takayuki Tsukiyama

一関市巖美町

1979年一関市巖美町生まれ。一関農業高校を卒業後、市内の会社勤務を経て県立農業大学校に進学。農業の基礎と産業用無人ヘリコプターの資格を取得。2013年就農し、飼料用、加工用含む水稲94%、トウモロコシ50%を栽培。両親、姉の4人暮らし。



地域の防除と農業を元気に

一関市巖美町 槻山 隆幸さん